

表2 ヒッグス粒子立証に貢献した主な日本の技術

貢献分野	企業・大学等	貢献した機材・設備や作業
加速器 本体	古河電気工業	超電導線材
	新日鉄住金	超電導電磁石に使うステンレス材
	東芝	超電導磁石
	IHI	冷却装置
検出装置	浜松ホトニクス	素粒子を検出するセンサー
	東芝	超電導磁石
	川崎重工業	低温真空容器
	フジクラ	光ファイバー
	林栄精器	素粒子の検出器
検出装置ア トラスの実 験グループ	東大、筑波大、高エネルギー 加速器研究機構（KEK）等 16 機関	検出装置の設計や開発、データ解析作業

(注) ヒッグス粒子を発見した LHC には日本の 16 機関が参加する「ATLAS」と欧米中心の「CMS」の二つの検出装置があった。ATLAS 実験には世界から約 2,900 人が、日本からは約 110 人が参加した。

(出所)日本経済新聞 2013 年 10 月 9 日付「ヒッグス立証、日本貢献」